

アースジェネター給与事例

～国吉 明牧場～

みなさん、こんにちは～っ！

今回は沖縄本島の西側に位置する久米島で繁殖経営（母牛45頭）をされている国吉牧場を紹介させていただきます。

農場主である国吉明さんの実家では以前からお父さんが牛飼いをしていました。それにも関わらず？地元の高校を卒業すると同時に牛さんとは直接関係のない（食を提供するという部分では共通しているのですが…）東京の寿司店に就職、板前を目指して修業しておりました。

しかし、実家の事情がありH13年6月、板前への道を諦めて実家に戻る事になりました。それまで牛さんは見た事はあるものの、“牛さんを飼う”と言うことに関しては全くの素人。しかし、時々牛舎の手伝いをしているうちに子牛の可愛さに取り憑かれ、後継者として真剣に牛飼いをしようと心に決めたそうです。年齢34才にして今までとは全く違う世界に飛び込む事になりました。

当時は何をどうしたらいいのかも解らず、地元の獣医さんの指導を受けながら試行錯誤の連続。が、持ち前の向学心と獣医師の薦めもあって、翌14年には人工受精師の資格を取得。自らの牛さんで実施訓練を繰り返し、見る見るうちに腕前が上達。現在は人工受精師として生産者からの評判も上々。受精師会の会長も務めています。

さらに子牛育成技術の向上を目指して猛勉強！

当初は子牛が生まれるものの下痢など病気が多く事故も多発。改善に取り組んではいたものの、獣医さんは国吉牧場に皆勤賞ものだったとか…。

そんな時、鹿児島県の獣医師で（有）シェパードの松本大策さんが書かれた本（もっと良くなる肥育管理、さらに良くなる子牛生産）に遭遇。これをバイブルとして牛さんの基本的な飼養管理や病気予防について更なる改善を目指していました。

この時に氏が本の中で紹介している生菌資材アースジェネターを知り、早速会社に問い合わせの電話を頂きました。

これが久米島と帯広との出会い？の始まりです。平成15年3月の事でした。

当時は母牛45頭でしたが経費の事もあり、取りあえずは子牛の下痢予防を主眼として



国吉明さん(右)と強力パートナーの甥、豊さん



国吉牧場牛舎

生後初日からアースジェネターの給与を開始しました。

給与当初は余り変化が見られませんでした。3ヶ月経過した頃から明らかに下痢や白痢の減少が見られるようになり、たとえ発症したとしても治療が長引かず、治りが良くなってきました。

更にアースジェネター給与半年経過した頃には、子牛の下痢も減少。

給与前までは生後1ヶ月以内には必ずと言って良いほど発症していた子牛の下痢なども発症しない、あるいは治療する前に回復するという現象も頻発。

全体的に粗飼料の食い込みも増えて増体も良く、体型に幅も出てきました。

且つ、同時期に生まれた群のバラツキも小さくなり、2ヶ月毎に開催される子牛セリ市場に順調に出荷。

発育不良による“居残り組”？が減少し、育成牛房の密度の改善にもつながってきました。

給与1年経過した頃からは、子牛全頭が生後からアースジェネターが給与されており、セリ市場での成績も上位に顔を出すようになり、周辺からも注目されるようになってきました。

その後も段階的ジェネターの母子全頭給与に加え駆虫対策、ワクチン投与などの予防対策を徹底し、それに伴って下痢等の治療回数も激減、育成成績も見事に改善されています。

今は母牛群の更新を徐々に進めて経営基盤の改善に努める一方、自給飼料畑の改善ために、良質堆肥作りにも挑戦しています。

また、H20年には受精卵移植師の資格も取得し、将来への準備も着々と進めています。

国吉さんは繁殖経営について、「増頭も一つの方法ではあるが、それ以前に限られた牛舎施設での適正頭数と労働力の中で、年1産を確保し、生まれた牛さんを全頭良い牛さんに仕上げ、最大限の収益を上げる事。そのためには自分が牛さんのために何をなすべきかを考え、実行し、継続することが何よりも大切！」と言っています。

さすがに牛さん大好き人間の国吉さん。牛さんの世界に入ってまだ8年にも関わらず、ここまで成績を改善できたのもうなずけます。

これからもより一層良い牛さん創りを目指して頑張ってください！



ゆったりしている育成牛群



食欲旺盛で毛づやも良い母牛群